

# 知って・使って・リーディングトラッカー

野口 武悟

## 1. リーディングトラッカーの役割と使い方

リーディングトラッカー(リーディングスリットやタイポスコープとも呼ばれています)は、読書補助具の一つです。ディスレクシア(後述)のある人や視覚障害(視野狭窄や黄斑変性など)のある人の読書をサポートするツールであるとともに、集中して読書したい人などにも便利なツールです。誰もが使えるユニバーサルデザイン(UD)のツールといえるでしょう。

使い方はとてもシンプルです。文書や本のページにリーディングトラッカーを当てるだけです(写真1)。リーディングトラッカーを使うことで、読みたい行だけに視点を集中することができます。

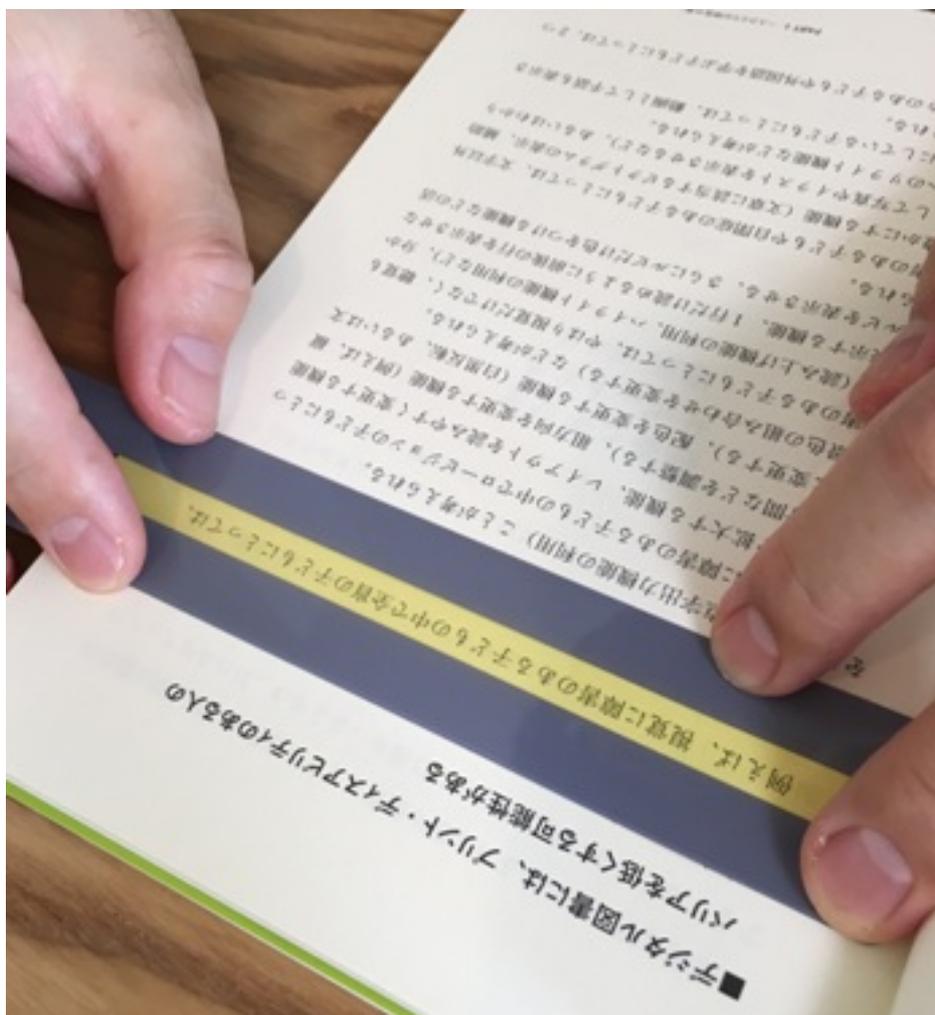


写真1 リーディングトラッカーの使用例

海外では、認知度も高く、製品化されたさまざまな種類のリーディングトラッカーが販売されています。一方、日本では、一般的な認知度はまだ低いのが現状です。学校図書館などでは司書が手作りのリーディングトラッカーを提供しているところもありますが、図書館用品としての販売が望まれていました。こうした要望に応える形で、2015年より、キハラ株式会社が5色(イエロー、ライトグリーン、エメラルド、パープル、ピンク)のキハラリーディングトラッカーの販売を開始しました(写真2)。



写真2 キハラ リーディングトラッカー

どの色が読みやすいかは、人それぞれで異なります。こうした多様性に応えるために5色用意されています。ただし、ディスレクシアのある人では、黄色が読みやすい傾向にあるといわれています。また、ディスレクシアのない人でも、黄色系統が読みやすいようです。筆者らが、2015年6月に東京都内の小学校に協力していただき、小学3年～6年生266人に読みやすい色を調査したところ、図1のような結果となりました。

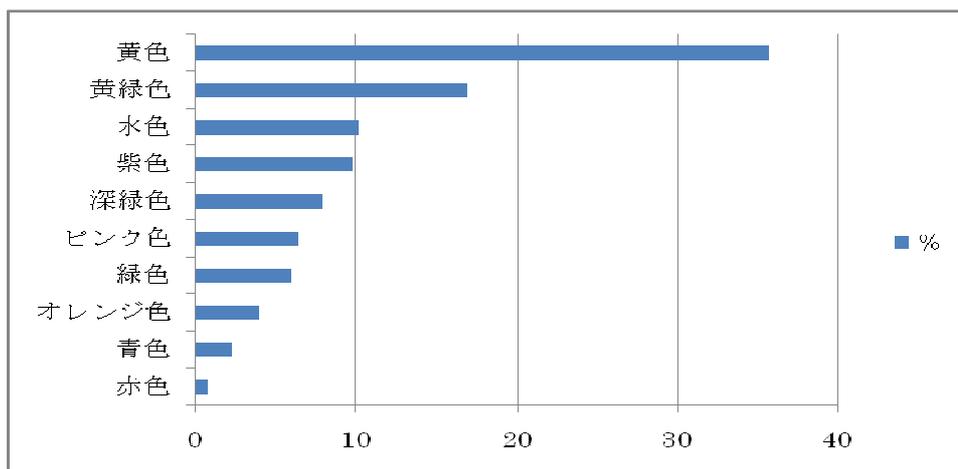


図1 読みやすい色の傾向

## 2. リーディングトラッカーの社会的意義

リーディングトラッカーは誰もが使えるツールですが、ディスレクシアのある人や視覚障害（視野狭窄や黄斑変性など）のある人に特に効果を発揮します。

ディスレクシアは、読み書き困難や読字障害などとも呼ばれています。学習障害(LD)の中心的な状態の一つで、学習障害の人の約8割にディスレクシアがあるといわれています。知的障害とは異なり、知的機能全般の発達には問題ありません。また、視覚障害があるわけでもありません。そのため、読めないのは、本人が“怠けているから”などと誤解されるケースも少なくありません。日本では、小学校・中学校の段階で2.5%（約26.5万人）の子どもにディスレクシアがあると推定されています。成人においても、ほぼ同様の割合でディスレクシアのある人がいると考えられます。ディスレクシアの原因は、文字を読んだり書いたりするための基礎能力（視覚認知と音韻意識）がうまく働かないことにあります<sup>1)</sup>。このうち、視覚認知については、視覚障害があるわけではないのですが、図2のように文字が認識されてしまうために、読みに困難が生じてしまうのです。こうした視覚認知に対しては、読みたい部分を焦点化するリーディングトラッカーを用いる、読みたい部分を拡大する拡大鏡を用いるなどのサポートが有効です。

思い出して下さい。あなたの  
クラスにこんな子は、いませ  
んでしたか。黒板をノートに  
写し取るのに時間がかか  
る子。ノートのマスから文字が  
はみ出してしまふ子。本読み  
がつまりつまりでしか読め  
ない子。きつといたことと思  
います。彼らは、そうしたく  
てしていたのでしようか。そ  
れとも、がんばっていたのだ  
けれど、そうなっていたので  
しょうか。

文字がにじんで見えたり、

思い出して下さい。あなたの  
クラスにこんな子は、いませ  
んでしたか。黒板をノートに  
写し取るのに時間がかか  
る子。ノートのマスから文字が  
はみ出してしまふ子。本読み  
がつまりつまりでしか読め  
ない子。きつといたことと思  
います。彼らは、そうしたく  
てしていたのでしようか。そ  
れとも、がんばっていたのだ  
けれど、そうなっていたので  
しょうか。

文字がゆらいで見えたり、

思い出して下さい。あなたの  
クラスにこんな子は、いませ  
んでしたか。黒板をノートに  
写し取るのに時間がかか  
る子。ノートのマスから文字が  
はみ出してしまふ子。本読み  
がつまりつまりでしか読め  
ない子。きつといたことと思  
います。彼らは、そうしたく  
てしていたのでしようか。そ  
れとも、がんばっていたのだ  
けれど、そうなっていたので  
しょうか。

鏡文字となって見えていたり、

思い出して下さい。あなたの  
クラスにこんな子は、いませ  
んでしたか。黒板をノートに  
写し取るのに時間がかか  
る子。ノートのマスから文字が  
はみ出してしまふ子。本読み  
がつまりつまりでしか読め  
ない子。きつといたことと思  
います。彼らは、そうしたく  
てしていたのでしようか。そ  
れとも、がんばっていたのだ  
けれど、そうなっていたので  
しょうか。

かすんで見えていたりします。

図2 ディスレクシアのある人にはこのように見える

「公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会」DAISYパンフレットより

視覚障害、なかでも視野狭窄や黄斑変性(視野の中心部分が見えにくくなる状態)などのロービジョンの人にも、リーディングトラッカーや拡大鏡によるサポートは有効です。日本眼科医会による調査では、視覚障害を有する患者が164万人いるとしています<sup>2)</sup>。また、高齢社会となり、見えづらさ・読みづらさを感じている高齢者も増えつつあります。年齢や状態に関係なく読書を楽しめるようにサポートするリーディングトラッカーの社会的意義とニーズは、今後さらに高まっていくことは間違いないでしょう。

### 3. 合理的配慮の提供義務化とリーディングトラッカー

2016年4月より、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行となります。この法律は、「障害者の権利に関する条約」の批准に向けた国内法整備の一環として制定されたものです(条約は2014年1月に批准)。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されると、公立学校や公立図書館を含む行政機関等には、合理的配慮の提供が義務づけられます。合理的配慮とは、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」(「障害者の権利に関する条約」第2条)と定義されます。分かりやすくいうならば、一人ひとりのニーズをもとに状況に応じた変更や調整を体制や費用などの負担がかかりすぎない範囲(=合理的な範囲)において行うことといえるでしょう<sup>3)</sup>。

公立のすべての学校や図書館で合理的配慮の提供義務化へ向けての対応が急がれます。また、私立(民間事業者)の学校や図書館においては、合理的配慮の提供は努力義務にとどまっていますが、公立に準じた対応が望まれます。

リーディングトラッカーを学校図書館や公共図書館に用意しておき、ニーズに応じて使えるようにしておくことは、まさに合理的配慮の提供の一つといえます。しかも、リーディングトラッカーは、体制や費用などの負担がかかりすぎない範囲で用意・提供できるものです。

提供の方法として、例えば、学校図書館では、写真3のように、誰でも自由に手にとれる場所に常備しておくのも一案です。公共図書館では、カウンターに常備しておき、利用者の申し出に応じて貸与する形などが考えられるでしょう。なお、リーディングトラッカーは、ユニバーサルデザインのツールですから、ディスレクシアのある人や視覚障害のある人だけに限定せずに、希望すれば誰でも使えるようにしてほしいと思います。

ただし、リーディングトラッカーを図書館内に用意しておいても、それをPRしなければ、使う人は増えないでしょう。すでに述べたように、日本では一般的な認知度がまだ低いからです。リーディングトラッカーの存在と、その使い方を具体的に紹介するチラシやポスターを作成してPRするとよいでしょう。その際に、本稿の内容を参考にいただければ幸いです。



(松江市立<sup>い</sup>揖屋小学校図書館)

写真3 学校図書館におけるリーディングトラッカーの提供例

## 文献

- 1) 河野俊寛著『読み書き障害のある子どもへのサポート Q&A』読書工房, 2012, p.37
- 2) 佐藤聖一著『1からわかる図書館の障害者サービス:誰もが使える図書館を目指して』学文社, 2015, p.1
- 3) 野口武悟・成松一郎編著『多様性と出会う学校図書館:一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ』読書工房, 2015, p.3

(のぐち たけのり・専修大学文学部 教授)